

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200072		
法人名	有限会社九州メディカルサービス		
事業所名	グループホーム「安心」なかばる		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字原古賀190-3		
自己評価作成日	平成23年3月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成23年3月30日	外部評価確定日	平成23年5月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>全体)</p> <ul style="list-style-type: none">・事業所の入居者本位の理念に基づき、落ち着いた静かな環境の中で、ゆったりとした個別的ケアの提供を行っています。・事業所の前に大きな畑があり、季節のお野菜やお花を育てています。・協力医療機関(仁徳会今村病院)との連携を密に行い、健康面において安心して生活することができます。 <p>A棟)</p> <ul style="list-style-type: none">・個人の生活歴を大切にし、家庭で過ごしていたような雰囲気作りに力を入れています。 <p>B棟)</p> <ul style="list-style-type: none">・カレンダー作りや工作などを行い、機能力低下を防ぐレクリエーションに力を入れています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、みやき町、中原地区の中心地に位置しており、周辺には、庁舎や郵便局、学校、商店等が点在している。事業所の居間や居室からは、眼下に広がる川や田畑・人の往来等が一望でき、四季折々の風景を見渡すことができる。医師である代表者は、医療と介護をトータルした支援に取り組んでおり、昼夜をとおして看護師を配置し、医療処置を要する利用者も、グループホームの中で安心して暮らせる体制を整えている。職員は、利用者一人ひとりの歴史や思いを大切にし、その人らしく安心して暮らせるように日々の支援に取り組んでいる。入浴や排泄の支援でも、異性の職員の介助を嫌がられる利用者には、できる限り同性の職員が対応するように配慮している。近所の方の協力を得て作られた、玄関先の広い畑には、幾種類もの野菜が植えられており、利用者と一緒に手入れや収穫が今後の楽しみになっている。</p>

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関や事務所に掲げ、朝礼で読み上げ、実践するように心がけている。	ホームのクレドと理念に基づき運営している。職員の再確認の為毎朝朝礼時に復唱行っている。	職員全員で考えた「いかなるときも入居者本位の運営を行い、元気で楽しく地域と密着した生きがいのある生活を支援します」を理念に掲げている。毎朝の申し送り時に、法人の理念と共に唱和をし、意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とお会いした際は挨拶をしたり、事業所前の畑の所有者の方と、交流をもったりを心がけている。	行事事に区長に来て頂いたり、近隣散歩時は挨拶行っている。	自治会にも加入しており、近隣の人達とは散歩の時等に挨拶を交わしている。また、畑作りへの協力や野菜の差し入れを頂くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症について理解していただきたいが、事業所から勉強を促すようなことは特に行っていない。	認知症の方の理解方法など地域の人に知ってもらいたいとは、思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加していただいた方々の意見を参考にし、取入れていいグループホームづくりをするよう心がけている。	2ヶ月に一度開催し事業所に対する要望は改善するよう努めている。	運営推進会議は民生委員、近隣住民、行政職員の参加を得て開催されている。議題には事業所の課題等をあげ意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連絡をとりあい、関係を持つようになっている。	地域ケア会議に参加し情報交換おこなっている。介護保険課へ訪問している。	管理者は行政の窓口に出かけた時や、地域ケア会議等で担当者とは顔を合わせることも多く、気軽に情報交換や相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段、昼間の生活時間帯は開放しているが、利用者の帰宅願望がみえたり、興奮時には安全のために、同意を得て施錠する場合もある。	安全面の為玄関・窓の施錠行っている時がある。その場合には御家族の同意得ている。	職員は、身体拘束の弊害や禁止行為を研修会等で学び、拘束のない支援に取り組んでいる。利用者の病状等から安全確保を目的に、家族の同意を得たうえで玄関が施錠される場合もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で連携をとり、虐待防止や日頃からの利用者の状態観察を十分に行うようになっている。	勉強会やカンファレンスなどで話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が理解できているとはいえないため、勉強会等を設けたり、参加するように促していきたい。	理解できる職員がすくないので、勉強会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族へ連絡をきちんと行い、同意、納得していただくよう努めている。	管理者立会い書類の説明を行っている。質問等あれば随時受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際には疑問点や不安な面がないか尋ねるよう心がけている。また、玄関に意見箱を設置し、意見をいやすいような環境づくりをしている。	利用者様の希望に添えるように話し合い改善できるように努めている。意見箱を設置し御家族の意見も聞けるようにしている。	面会時や家族が行事に参加される時には必ず声をかけ、何でも言ってもらえるように心がけている。出された意見や要望等は、職員間で検討し、運営に反映している。玄関には、意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを行い、職員同士や管理者へ意見をいう機会を設けている。	月一度のカンファレンス以外にも管理者へ改善点は報告している。	管理者は、日常の業務の中や毎月の会議で、職員の意見や要望等を聞き運営に活かしている。医師である代表者は、毎週1回、往診に訪れ職員と話をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めるようにしているが、現状、なかなか改善できていないことが今度の課題である。	現場の改善点は管理者へ報告している。管理者は、同法人の会議にて現状を報告。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護保険課開催など外部の勉強会等に参加し、啓発するよう心がけている。	同法人の勉強会や介護保険課の勉強会に参加。年二回管理者が人事考課を行い面談している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度程度ではあるが、系列事業所内で勉強会を行っている。その際、他事業所との交流がもていると感じる。	同法人の勉強会に参加。質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なことや要望は遠慮なく相談していただき、解決できるよう努めている。	入居希望者には、説明と施設見学を行い納得して利用して貰えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも説明を行い、不安な面等は相談していただき、関係づくりに努めている。	御家族には十分な説明を行い、不安・要望等を聞き納得して利用して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と本人の希望を聞いた上でのサービス等を提示し、選んでいただくようにしている。	入居希望者には、説明と施設見学を行い希望に添えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とスタッフが共に暮らすような関係づくりを心がけている。	お互いに協力し、暮らしを共にする家庭的な環境を心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者の生活状況を新聞に配ったり、意見交換のノートも設置している。	食事や催し物を楽しめる会を開いて御家族と交流を深め情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方などとの交流維持ができるように努めている。	友人や知人の面会も多い。希望あれば電話の支援も行っている。	家族や知人等の訪問時には、利用者と一緒に歓迎し、お茶を出してもてなしている。通院時には自宅を眺めてもらったり、馴染みの美容院での整髪等を支援している。また、電話や年賀状をとおした関係継続の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することがないように、フロアにてレク等を行い、利用者間で交流がもてるよう支援している。	個人の性格・要望を把握し安心した生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、行事新聞等を郵送したり、相談に応じたりなどをして、交流を保つように努めている。	退去や転居後でも相談に乗れるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者個人の意見を尊重し、なるべく希望に沿えるよう努力している。困難な場合は、ご家族等に相談、同意を得て行うようにしている。	本人の希望を確認し出来るだけ希望に沿った生活が出来るように支援している。	日常の会話や表情、音、映像への反応等から本人の思い等を把握している。意思の疎通が困難な場合には、家族からも話を聞いて本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の情報を本人やご家族、場合に応じては使用されていたサービス元に尋ね、把握するようにしている。	本人様・御家族の希望に出来るだけ沿ったサービスが提供できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態観察をきちんと行い、記録に残し、現状把握ができるよう努めている。	入居者様の現状・状況を記録に残し職員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン等はご家族の意見も取り入れ、職員同士でも話し合い、適した介護計画になるよう心がけている。	本人様・御家族様・職員の意見を聞き良いケアができるように努めている。	本人や家族の希望や意向を確認すると共に、関係者で話し合い、介護計画を作成している。介護計画は定期的に評価と見直しを行い、現状に沿った計画で支援している。日々の記録も計画に沿ってなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、状態をきちんと把握した上で記録を作成し、また毎日必ず記録には目を通すよう留意しながら情報を共有するようにしている。	日々ケアの中で気づきがあれば個人記録に残し介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズになるべく沿えるよう、取り組んでいる。	出来る限りのサービスを支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人やご家族の希望に沿えるような地域資源があれば活用するよう心がけている。	地域資源をうまく活用してるとはいえないが安心して暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所の経営母体の病院であるため、連携は密である。もし、入居前からのかかりつけ医がある場合はそちらとも情報を共有できるように配慮している。	入居前からかかりつけ医がある場合可能な限り継続できるように支援している。関連医療機関と連携している。	以前からのかかりつけ医や本人・家族の希望される医療機関の受診がなされている。協力医療機関の受診は職員が介助しているが、他の医療機関の受診時には、多くが家族の付き添いである。それぞれの医療機関とは良好な連携がとられ、安心した受診に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ささいな変化でも看護師に相談し、適切に受診等ができるようにしている。	日々状態観察を行い看護師へ報告、適切な看護や受診が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には面会に向き、その際に病院関係者と情報交換を行うようにしている。	関連医療機関と連携し状況を把握し早期退院に繋がるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の意見を聞き、最期をホームでも受け入れるよう支援はしていく予定だが、実際はまだホームで看取ったケースはない。	入居時本人様・御家族の希望を聞き主治医・看護師・職員が連携し援助できるよう努める。	入居契約時に重度化や看取りに関する対応指針を家族に説明し、意思の確認を行っている。なお、いつでも意思の変更が可能である旨も伝えている。これまでに事業所での看取りケアの実績はないが、24時間対応の協力医療機関との連携により、安心できる支援体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、対応できるような態勢はしているが、訓練等は行っていないため、実践力には欠けると考えられる。	緊急時のマニュアル作成し対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回程度、防火訓練を行っている。	年に二回防火訓練をおこなっている。その際消防署の指導を受けている。	年に2回、消防署の指導を受けながら、昼夜を想定した、火災時の通報や避難訓練等を実施している。地域住民の参加協力を要請するまでには至っていない。	勤務者の少ない夜間の避難誘導の限界を具体的に確認し、地域住民の参加協力を得た訓練に取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドを損ねないよう、言葉かけには十分留意している。	職員一人一人常に心がけている。	利用者の人格とプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。特に、排泄の支援ではプライドや羞恥心にも配慮し、異性の介助を嫌がられる利用者には、できる限り同性の職員が対応するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に希望を尋ね、なるべく本人の希望にそったような介護ができるように支援している。	ゆっくりとした時間を過ごしてもらい、利用者様の話を聞き希望に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	焦らせずに、自室にて過ごされたい場合は自室に、フロアで皆様と過ごされたい場合はフロアで過ごしていただくようにしている。	体調を配慮し一日の過ごし方を本人の意見を聞き決めるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選ぶことができる人はスタッフが最低限の支援を行い、一人では更衣が難しい方でも、なるべく本人の希望を聞き、本人の着たい服を着せるよう心がけている。	希望あれば美容室等に行ったり化粧をされてるかたもいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備等は衛生面を考え、職員が行ってはいるが、職員と利用者が一緒にご飯を食べたり、四季の変化に沿ったおかずを出すよう工夫をしている。	下膳やお茶くみなど出来る範囲一緒に行っている。季節の食材も取り入れている。	利用者の力量に応じて、食材の下ごしらえやお茶くみ、引き膳、テーブル拭き、食器洗い、おやつ作り等を一緒に行っている。食事の時には、職員も同じテーブルを囲み同じものを食べながら、楽しい食事になるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量や水分摂取量をきちんと記録し、状態観察を行っている。	観察し個々の状態・状況に合わせた食事の形状にしている。福祉食を契約し栄養のバランスが把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、口腔内の清潔に努めている。	個別にケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意や便意がない方は定期的にトイレへ誘導し、失禁の回数が減るよう支援している。	日中は、できるだけオムツを使用しないようトイレ誘導をおこなっている。	利用者の排泄パターンや生活習慣等から前誘導を行い、自立やトイレでの排泄支援に取り組んでいる。日中は全員をトイレで支援しており、おむつ着用から改善された利用者もみられる。3ヶ所のトイレが居間や居室に近く、支援にも効果的である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やバナナ等、排泄しやすいような食物を提供するようにしている。	出来るだけ薬に頼らず乳製・食物繊維摂取や、腹部マッサージを行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回、曜日を決めて入浴介助を行っているが、体調等を最優先し、入浴日以外にも希望があれば入浴できる体制は行っている。	入浴日は決まっているが、安心できる環境、声かけを心掛けている。別ユニットと入浴時間が異なる為ある程度要望に応えることができる。	体調や希望に応じて週2～3回の入浴支援を行っている。夜間以外は、時間的にも本人の希望に合わせてたり、異性の介助を嫌がられる利用者には、同性の職員で対応する等、安心した入浴になるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて、利用者が気持ちよく寝られるように足浴等行っている。	入居者の状態に応じて室温調節、安心できる環境を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬されている薬を把握し、利用者の状態を観察し、変化に気づくよう心がけている。	処方箋はいつでも職員が見れるようにしている。服薬変更時は、看護師に説明をうけ、その後の状態観察を記録に記入。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のこれまでの生活を最重要視し、それを生かした生活を送れるよう支援している。	今まで送られてきた生活を継続できるように支援し安心して過せるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や体調がいい日には散歩等の支援を行っている。ご家族様にも協力していただき、外出や外泊できるように支援している。	天気の良い日には出来る限り外出できるよう努めている。御家族の協力もある。	天気の良い日には敷地内や近隣を散歩している。玄関先には、立派な畑もあり、幾種類もの野菜が植えられ、利用者の水やりや収穫等への参加が期待されている。自宅への外泊や買い物、外食等の個別の希望による外出は、家族の協力を得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(A棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(B棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望されている方にはご家族の了解を得て自分のお金を持っていただいている。欲しいものがあれば、一緒に出かけたり、スタッフが代行して買い物したりしている。	自己管理できる方はお金を持たれている。外出の際買い物もされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、ご家族に電話を自らかけていただいたりしている。	希望があれば直接電話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁を季節に沿うような装飾をしたり、共有スペースは利用者が過ごしやすくなるような配慮を行っている。	室内を季節に合った飾り付けにしたり花を生けたりと落ち着いた生活が出来るように工夫している。	事業所内は、木材を基調とした設えで、一角には置の間もあり、安心感のある雰囲気作りがなされている。照明による利用者への刺激を考慮し、点灯にも配慮している。壁には、利用者に馴染みのある古い町並みや神社の絵を飾り回想を支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様個人の部屋で一人を時間を過ごし、フロアで他の利用者様と過ごすような環境にしている。	個室や和室など落ち着いて過せるようなスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使っていたもの等を持ってきていただき、過ごしやすような部屋作りを行っている。	長年使い慣れたものを持ってきてもらい、本人様にとって安心できる環境を提供している。	職員は、本人が安心して過ごされるように、愛用されていた馴染みの品の持込を働きかけている。いつも身につけておられた指輪やネックレス等も家族の協力を得て、着用してもらっている。居室には、家族の写真や筆筒、鏡、時計、日用品等が見られ、それぞれの住まいが作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの希望を把握、考慮し、利用者が少しでも自分らしい生活が送れるよう、環境整備に努めている。	個々の特徴・希望を把握し、自分らしい生活が送れるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
		○		3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
			○	3. 利用者の1/3くらいが
		○		4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○		1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○		1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○		1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○		1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない